

コミュニケーション実践学Ⅱ（対人世界の心理学）

（１）科目の紹介

基本情報	平成 25 年度・教養教育・前期	曜日・校時	木 5 限
モジュール名	コミュニケーション実践学	科目名	対人世界の心理学
教員名（所属）	山地弘起（大学教育機能開発センター）		教室 G-38
選択者数	30名	2年生の所属学部	教育学部 経済学部
再履修数	0名		(17名) (13名)
<p>授業のねらい：(学生向けに)</p> <p>皆さんは、例外なく、他の人間たちのなかで生まれ、育ち、今に至っている筈です。周りを見渡せば、親密な関係（家族など）もあれば、生活の一部での関係（クラスメイトなど）やごくわずかな一方的な関係（テレビを通してなど）もあるでしょう。上下関係や年齢に応じた立場や役割に気づくこともあるでしょう。さらには、故人や先祖とのつながりを感じることもあるかもしれません。好き嫌いや相性といったもので、付き合い方を変えていることもあるかもしれません。我々は皆、そうした様々な質に彩られた関係の網目のなかで日々を過ごしています。と同時に、各自の認知機能や性格傾向などにおいて、その多くの部分は、これまでの対人関係の所産といえます。発達過程における対人関係の重要性を、強調しすぎることはできません。そして今後、さまざまな場で相互にケアし合える関係を構築していくことは、次世代への重要な責任の一つといえるでしょう。そこで本科目では、①自分の対人世界のありようを意識化する、②対人関係スタイルの成り立ちを吟味する、③互いの成長を支え合う関係構築の方法を模索する、の3つのねらいを設定します。</p>			
<p>アクティブラーニングに向けて工夫した点：</p> <p>学部および性別混成のホームグループを構成した。内容面ではまず、自己理解の体験学習を含めながら、関連した代表的な考え方を検討した。その後、教科書を授業外の時間で学習し、いずれか1つのテーマでジグソー学習のリーダーを務め、グループ・プレゼンテーションを行うことを求めた。学習内容を個人的記憶と関連付け、消化を促すためにメモリーワークも含めた。</p> <p>授業外学習を促進するために、資料要約やライティングなどの基本技能の学習にも時間をとった。</p>			

（２）学修の評価

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の社会的ネットワークを記述することができる ②ソーシャルサポートについて説明することができる ③自分の対人関係スタイルを分析することができる ④愛着について説明することができる ⑤ソーシャルスキルについて説明することができる ⑥自分の課題となっているソーシャルスキルを明示することができる ⑦ ケアリングの関係構築の方法を、少なくとも一つ提案することができる ⑧関心をもった内容について、グループ・プレゼンテーションを適切に行うことができる ⑨対人世界における自分の行動課題を適切にまとめることができる
------	---

評価対象	目標	実施方法	配点と評価観点
予習課題	①～ ⑥	各回に指示。次の授業の前日 24 時までに WebClass に提出し、授業にはプリントアウトを持参すること。	1 点×15 回。
授業内のワークシート	①～ ⑨	各回授業終了時に提出すること。	2 点×15 回。内容が不十分な場合は減点。
復習課題	①～ ⑨	各回に指示。次の授業の前日 24 時までに WebClass に提出すること。	2 点×15 回。内容が不十分な場合は減点。
プレゼンテーション	⑧	担当章の回に学習リーダー、「復習と討論」の回に 12 分のグループプレゼンテーションを行う。	学習リーダーとして 5 点、グループプレゼンテーションに 10 点。詳細は別紙。
最終レポート	⑦⑨	題目は『学びの整理と次への課題』とし、2,000 字程度でまとめること。締切は 8 月 11 日（日）24 時。WebClass に提出のこと。	10 点。詳細は別紙。

(3) 授業の進行

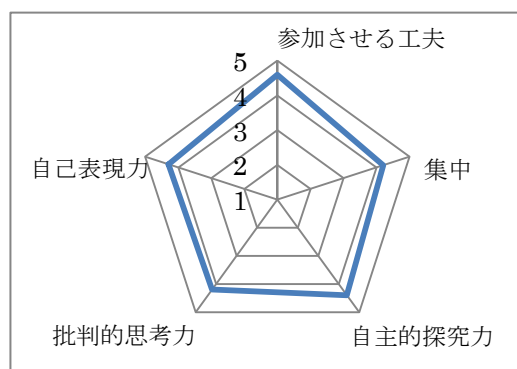
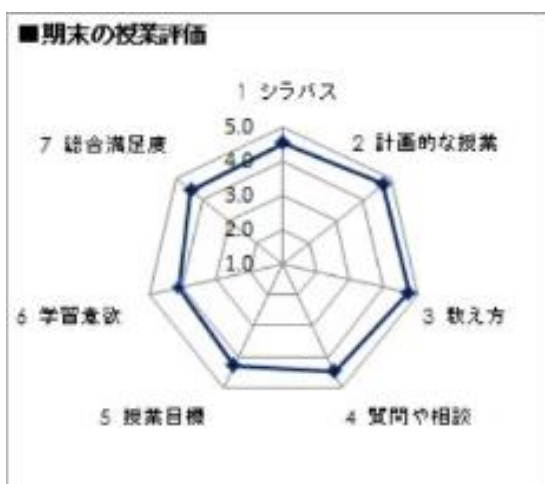
回	学習内容	授業方法（講義、グループワーク、プレゼンなど）
概要： 第 1 回授業において、扱う内容や学習方法、評価の仕方等を説明した。その後第 4 回までは、対人世界を探る基本的観点を学ぶとともに、資料要約の仕方に注意を促した。まず人間関係のネットワーク、なかでも必要なときに援助を期待できるソーシャルサポートのネットワークを各自振り返り、また早期の対人環境がどのように後続の対人関係に影響を与えうるかを検討した。その上で、現在の自分の対人技能（ソーシャルスキル）の傾向と課題を整理した。第 5 回から第 14 回までは、教科書の内容に沿ったジグソー学習とグループ・プレゼンテーションをもとに学習を深め、個人的体験を振り返るメモリーワークも含めた。第 15 回はここまでの学習をまとめてレポートにする準備を行い、最終回はレポートの表現・表記面に関する補足をした。		
1	導入（学習方法等の説明）と調整 グループ分け 「社会的ネットワーク」（1）	解説 グループワーク 体験学習
2	事前アンケート・各章の担当決め 「社会的ネットワーク」（2） 「ソーシャルサポート」	講義 体験学習 グループワーク

3	「対人関係スタイル」 「愛着」	講義 体験学習 グループワーク
4	「ソーシャルスキル」 メモリーワーク（1）	講義 体験学習 グループワーク
5	第2章 青年期の恋愛関係	ジグソー・グループワーク
6	第3章 青年期の親子関係	ジグソー・グループワーク
7	復習と討論	グループ・プレゼンテーション
8	メモリーワーク（2） 中間の授業評価	グループワーク
9	第4章 青年期の友人関係（前半）	ジグソー・グループワーク
10	第4章 青年期の友人関係（後半）	ジグソー・グループワーク
11	復習と討論 メモリーワーク（3）	グループ・プレゼンテーション グループワーク
12	第5章 青年期と学校	ジグソー・グループワーク
13	第6章 青年期と社会	ジグソー・グループワーク
14	復習と討論	グループ・プレゼンテーション
15	メモリーワーク（4） 最終レポートの準備（1）	グループワーク 講義
	最終レポートの準備（2）	講義

16	事後アンケート・授業評価	グループワーク
----	--------------	---------

(4) 授業の成果

全体の総括	<p>学生たちは、一旦要領が分かると上手にテキストの要点を提示し、また積極的に疑問点を考え合うようになった。彼らの関心にマッチしたわかりやすい教材の学習と個人的体験の振り返り（メモリーワーク）とをグループで進めることで、学習意欲を維持できたように思う。ジェネリックスキル向上の自己評価も高い（下図参照）。</p>
今後の改善点	<p>①グループ・プレゼンテーションとそれへのフィードバックに時間をとるため、当初計画に含めていたケアリングの内容を削除したりメモリーワークを移動したりせざるを得なかった。プレゼンテーションの仕方や質疑応答のあり方、討論の深化等にはより丁寧な指導が必要。</p> <p>②毎授業のワークシートのワーディングを改善するとともに、ジグソー形式で各内容を学習していく際に、ノートをとるためのワークシートを新たに用意したほうがよい。（いずれも学生からの提案）</p> <p>③学習リーダーやグループ・プレゼンテーションの相互評価が満点に近く、実際を反映していないことが多かった。その一因は記名式であったことにあるかもしれないが、教員による評価の組み込みも必要。</p> <p>④電子会議室への貢献を今回評点に加えていなかったが、学習リーダーの報告やグループ・プレゼンテーション後の質問への回答などを徹底するために、評点に加えることも必要かもしれない。</p> <p>⑤毎回の課題への教員からのフィードバックが遅れがちになり、タイムリーな対応ができなかったため、この点はぜひとも改善したい。</p> <p>⑥課題提出が十分でない学生に、より早期から働きかける必要がある。</p>



(5) アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標と学生の関心の双方に応える教材を探し、活用する ・学生の既存のジェネリックスキルを活性化しながら、更に向上させる ・教員は早めに中心から外れ、後方支援に回る
参考になる資料	「長崎大学におけるアクティブラーニング事例 第1集」 大教センター

(別添資料)

学習リーダー・フィードバック票

学習リーダー名 () グループ () 担当章 () 担当節 () ____月____日

1. 要約の点検	内容構成と各段落の中心文が的確に把握されており、要約の点検が分かり易く進んだ。	()
2. 内容の理解	内容は十分に調べられており、質問や意見に的確に対応することができていた。	()
3. 資料づくり	グループに戻って教える際の、内容理解を助ける工夫（図示など）に提案や助言があった。	()
4. 話し方	全体に目を配っており、声も明瞭に聞き取れた。話す速さも適度で、間の取り方も適切であった。	()
5. 時間配分	規定時間内に終了し、時間配分も適切であった。	()
総合評価	○を1点、△を0.5点、×を0点として合計を出してください。	[]

感想・コメント：

グループ () 氏名 () 学部 ()

プレゼンテーション・フィードバック票 グループ () 報告課題 () ____月____日

1. 内容	内容は十分に調べられており、発表者がよく理解できている印象がある。	()
2. 構成	わかりやすい順序で内容が構成されており、ポイントも強調されている。また、聴衆に理解しやすい表現が使われている	()
3. 資料	内容理解を助ける視覚的工夫（図表や写真、アニメーションなど）がある。文字も読みやすく、かつ分かりやすい。	()
4. 引用明示	引用元が正確に明示され、資料末尾に書誌情報が過不足なく挙げられている。	()
5. 話し方	聴衆全体に声が届いており、また最初から最後まで明瞭に聞き取れる。話す速さも適度で、間の取り方も適切である。	()
6. 視線	発表全体を通して、聴衆を落ち着いて見ている。	()
7. チームワーク	メンバー同士が十分協力して発表を進めているように見える。メンバー全員の熱意が感じられる。	()
8. 創意工夫	プレゼンテーションをより効果的にするために、グループでの創意工夫がみられる。	()
9. 時間	発表は規定時間内に終わり、時間配分も適切である	()
10. 質疑応答	質問を正確に理解し、的を得た応答をしている。応答は誠意をもったものであり、建設的である。	()
11. 総合評価	○を1点、△を0.5点、×を0点として合計を出してください。	[]

12. 感想・コメント（内容と発表の仕方の両方について）：

グループ () 氏名 () 学部 ()